



9/19 消費者力アップ学習会Vol.1 「高齢者施設の選び方～お金、契約、 入居後のトラブル防止のために～」 を開催しました



講師の太田差恵子さん

9月19日(土)、NPO法人 埼玉消費者被害をなくす会は浦和コミュニティセンターにて、太田差恵子さん(介護・暮らしジャーナリスト、ファイナンシャルプランナー)を講師に、学習会を開催、会場に51人、オンラインで34人、計85人が参加し、介護施設の種類や特徴、資金計画などについて学びました。



左から、本多史子さん、大久保美紀さん、大野元裕知事、吉川尚彦、飯塚千郎さん、小杉佐智子さん

11/10 埼玉県消費生活功労者表彰式 会員生協から3人、 埼玉消団連1人が表彰されました



11月10日(火)、埼玉県消費生活功労者表彰式が埼玉県知事公館で行われ、消費者団体や消費生活協同組合の活動を通して消費者の利益のために取り組んでこられた14人の方が表彰されました。埼玉県生協連会員生協からは、飯塚千郎さん(コープデリ生活協同組合連合会)、小杉佐智子さん(生活協同組合パルシステム埼玉)、本多史子さん(生活協同組合コープみらい)の3人が受賞、埼玉県消費者団体連絡会からの推薦で、大久保美紀さん(埼玉県生協連常務理事)が受賞しました。



グループに分かれて、もっと聞いてみたいことなど話し合いました

11/19 埼玉省委託事業 役職員研修会を開催しました



講師の坂倉忠夫さん

11月19日(木)、「消費者志向経営と持続可能な社会」をテーマに、役職員研修会を開催、8生協16人が参加しました。公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)専務理事の坂倉忠夫さんに先進的な企業の取り組みを紹介いただきながら、消費者行政の流れと消費者の変化、消費者志向経営とは、SDGsとの関係など、お話いただきました。



埼玉県マスコット「コバトン」

写真ニュース

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

2021
冬号
No.76
(2021年1月発行)

Top News

10/16 第56回埼玉県消費者大会 初めてオンライン配信しました



参加者は荻原さんの講演に大いに励まされました



大野元裕埼玉県知事に、新しい生活様式での開催についてお礼の言葉をいただきました

「自ら考え行動する消費者になろう～誰ひとり取り残さない持続可能な社会を目指して～」を大会スローガンに、埼玉会館で23の消費者団体による実行委員会が開催しました。新型コロナウイルス感染拡大に対応し、実参加は実行委員会団体のみとしました。ご来賓として、大野元裕埼玉県知事にごあいさついただき、事務局から基調報告と埼玉県への要請書を提案しました。記念講演は、経済ジャーナリストの荻原博子さんに、新型コロナウイルス感染症と向き合って、これからどうしていくかについてお話しいただき、やみくもに不安がるのではなく分析したり、前向きに考えていくことが大切と話されました。

10/30 関東農政局との意見交換会 ゲノム編集食品を テーマに開催しました



3省庁から、ゲノム編集食品について説明いただき、質問には丁寧に答えられました



参加者からは多くの質問や意見が出されました

10月30日(金)、関東農政局と埼玉県消費者団体との意見交換会が、さいたま新都心合同庁舎で、ゲノム編集食品をテーマに開催され、10消費者団体から25人が参加しました。3月に開催目前に延期となったもので、農林水産省消費安全局農産安全管理課審査官、厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課、消費者庁食品表示企画課より、ご説明いただきました。

9/18 助け合い活動交流会 JAの「助けあい」 組織と活動について 学習しました



JA埼玉県中央会農政対策部の浦野瑞希さんに報告いただきました

9月18日(金)、埼玉会館ラウンジにて4生協26人の参加で開催しました。JAの全国の取り組みの概要と、埼玉県内での取り組みについて報告いただき、会員生協の助け合い活動のしくみと実際の活動事例や福祉活動について報告し、交流しました。



広がる県内生協の多彩な活動

生活協同組合コープみらい

第14回キッズデザイン賞「消費者担当大臣賞」を受賞しました



表彰式で、吉川 起(たける)内閣府大臣政務官(右)から表彰状を受け取る土屋 敏夫コープデリ連合会理事長



11/28 大宮東小学校チャレンジスクール「フードチェーンと食中毒予防」についての出前授業を行いました

コープみらいなどコープデリグループで取り組んでいる、子どもたちへの食の安全と学びの取り組みが評価され、第14回キッズデザイン賞「消費者担当大臣賞」を受賞しました。組合員が講師となり、小学校や公民館などで、地産地消や食品ロスなどを学べる出前授業を行っています。コープデリ商品検査センターでは手洗いチェックや身近な食材を使った実験など、子どもたちへの食育プログラムを実施し、これらの活動を通して、子どもたちに「食の安全を自らのこととして捉えること」を伝えています。



さいたま住宅生活協同組合

ブロックごとの組合員意見交換を実施



新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状況の中、懇談会等、各地で中止を余儀なくされています。そんな中、10月31日(土)、狭山市において今年度初めての懇談会を実施することができました。会場となった「狭山市民交流センター」のコロナ対策もしっかり行われており、安心して懇談会ができました。今年度は、コロナの影響をものに受け厳しい経営状況を説明し、さらなる協力をお願いしました。組合員から意見、要望を伺いながら、この取り組みで、組合員の信頼感が一層深まっていることを実感しました。



医療生協さいたま生活協同組合

川口市の公民館を会場に「コグニサイズ」体験会を開きました



10月20日(火)、2回目の「コグニサイズ」体験会を開きました。会場周辺にチラシでお知らせ、前期高齢者の組合員200名への電話かけ、1回目の参加者のロコミヤ地域包括支援センターからお誘いいただき、24名の参加でした。町会行事も開かれず、身体を動かすことへのニーズに応えた企画となりました。参加者は失敗するたびに笑い、楽しく終わりました。体験会は今回で終わり、次回からは参加者が自主的に取り組んでいく予定です。

※コグニサイズ

国立長寿医療研究センターが、自治体等と連携した研究で開発した運動と認知トレーニングを組み合わせ、認知機能の低下を抑制する運動



生活協同組合パルシステム埼玉

ステーションパル始めました!



10月2回企画から、蕨センターと入間センターで直接商品を受け取る新サービス「ステーションパル」を始めました。利用開始時にご希望の曜日を指定し、指定曜日のお好きな時間に商品をお受け取りいただけます。牛乳1本から注文でき、パルシステム手数料はかかりません。新しいご利用の形として、今後も展開を広げていく予定です。



生活クラブ生活協同組合

久々の所沢三富の収穫体験でおおにぎわい



コロナ禍で子どもたちが外に出て遊ぶ機会がほとんどなくなってしまった中、感染予防しながら、10月18日(日)に秋野菜の収穫体験を行いました。ロコミだけの声掛けにもかかわらず、何と約70人の参加。さぞかし野外活動に飢えていたのです。感染防止のため、朝の検温と少人数のグループ分けを徹底。親子一緒に、枝豆や落花生を根元から引き抜き、大笑いしたり、綿を優しく摘んでいる様子が印象的でした。今後もコロナ対策をしながら、冬の雑木林の枝拾いや落ち葉はき活動を進めていきます。



埼玉県労働者共済生活協同組合 (こくみん共済 coop<全労済>)

「こくみん共済 coopセミナー」を開催しました



10月6日(火)にラフレさいたまにて、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を充分しながら、「こくみん共済 coop セミナー」を開催し、41団体46名の参加がありました。

災害リスク評価研究所代表の松島康生氏を講師に「私たちが住む埼玉県の水害リスクと防災対策」をテーマに講演をいただきました。また「2019年台風19号を踏まえた住まいる共済・台風災害(風水害)に備える取り組み」について、参加者から共済推進の具体的な事例報告をいただき共有化をはかりました。



埼玉大学生生活協同組合

埼玉大学生協GIツイッター毎日投稿プロジェクト



埼玉大学生協ではGI(生協学生委員会)が10月より毎日、自分の生活をツイッターで投稿する活動を開始しました。コロナ禍の中で大学生がどんな生活をしているのかをツイッターで発信することで、学内などで友達と会えない人が他の人の生活を知ることが出来るだろうというプロジェクトです。この活動を通してコロナ禍の学生組合員のストレスが少しでも減ることを願っています。

